令和4年度第2回行財政評価委員会・会議録

日時 令和5年3月14日（火）午前10時～午前11時30分
場所 市役所3階 301会議室
出席者 河内長野市行財政評価委員会 5名
事務局 宮阪総合政策部長、小池政策企画課長、及び政策企画課職員
事業担当課 政策企画課、自治協働課、産業観光課、農林課
傍聴者 なし

案件1. 令和3年度地方創生推進交付金事業の評価について

事業：「丘の生活拠点」（南花台）まちづくりモデル事業

○要素事業1 「丘の生活拠点」（南花台）まちづくりモデル事業

<担当課から事業内容・評価の概要を説明>

<主な質問、意見>

委員：広い公園やサッカースタジアムが出来るのは、河内長野市全体で考えてもプラスになり、南花台以外でも、清見台や美加の台、その他の地区の人でも利用できるのでは、非常にいい事業だと思う。1点質問で、自動運転のルートがAルート、Bルートの2ルートとなっているが、このルート以外の人はどうするのか？

担当課：自動運転とは別に、呼び出すと迎えに来る送迎タイプのオンデマンド運行をしており、南花台地区全域で約300ヶ所の乗降ポイントを設け、自宅の近くの乗降ポイントからコノミヤまでといった送迎をしている。自動運転は、令和3年度から定時定ルートで運行開始している。

委員：南花台にすごい公園ができるのだと思った。車では行きやすいが、子育て世代が電車で行くとなると、交通手段があまりないのではないかと感じる。事業自体は、コロナ禍でもラジオ体操など健康面でたくさん情報発信が出来ていてよいと思う。

委員：取り組みに熱量を感じる。クルクルや公園の整備、コノミヤテラスなど、住民が参加できる拠点の整備を入れていて、しっかりとやっているという印象を持った。
コノミヤテラスの利用において、運営研究会がゼロになっている。コノミヤテラスは様々な住民の方が活用していることは分かったが、住民が主体となって現状を踏まえて2、3年後の活動を検討することが非常に重要と思うが、実態はどうなっているのか。
横展開を考えているところは素晴らしいと思う。クルクルも下里地区で実施しており、住民参加の拠点づくりでは、ゆいテラスを開設している。そこで、コノミヤテラスでの経験や教訓は、ゆいテラスにどのように生かされているのか。

担当課：運営研究会の実態について、活動回数等に記載はないが、運営研究会等や他の取り組みを含めたもう一つ上の段階で、市や事業者なども一緒に入った総合研究会を設置し、情報共有をや活動の状況について、月 1 回会議を行っていた。なお、運営研究会は新しい事業を検討するという主旨があり、コロナ禍で地域活動自体を広げられない中で新しい取り組みを始めるのは出来ないということでストップしている。

ゆいテラスの取り組みについて、イズミヤの 4 階にあり地域まちづくり支援拠点のコーディネータ業務を社会福祉協議会に委託している。社会福祉協議会が主体となり、参入団体連携会議を設け、市、社会福祉協議会、歯科医師会、薬剤師会、青年会議所、関西大学をはじめ各大学、H2O といった様々な団体で取り組みを検討し、さらに分科会も開いている。また、地域の参加がキーになるが、市や社会福祉協議会が地元からの様々なご意見や知見を聞き取り、参入団体連携会議の中で共有し、地域への提案を積極的にしていきながら、地域で使いやすい活動を展開できる場として、引き続き取り組んでいきたい。

委員：横展開をしていくうえでは、コノミヤテラスの総合研究会と、ゆいテラスの社会福祉協議会などの関連団体との横の交流が重要だと思う。

委員：評価シートについて、公表するものであれば、横展開という言葉は通じにくいのではないかと感じる。南花台で得た知識、知見を他にも応用して活動を広げることが大切なことであると考え、市内部だけで通じる言葉ではなく外に向けて発信する時には、もっと分かりやすく表現することが必要と思う。

委員長：横展開という表現は、他の模範となる、他に波及する、他地域へのモデルとなるというような意味だと思うが、もっと分かりやすい表現にしてはどうか。

<委員会の評価>（「妥当」、「概ね妥当」、「要検討」の分類により評価）
「妥当」

事業：地域活性・交流ハブ拠点化推進事業

○要素事業 1 観光誘客促進事業

<担当課から事業内容・評価の概要を説明>

<主な質問、意見>

委員：河内長野に多くの観光客が来るようになってきていることの一つの要因が、くろまろの郷の成功だと思う。先週、富田林の寺内町に行ってすごく感動した。河内長野にはいろんな文化資産があるので、PR 材料にすればいいと思うが、まだ利用できていない。余談だが、楠木正成の銅像は、観心寺と湊川神社、皇居の三か所にある。皇居に外国人の観光客が来たら、武将のそのままの姿だとすごく感動されるそうなので、そういうことも PR 材料にすればよいと思う。

委員：くろまろの郷は、土日では車で来られる方がたくさんいて駐車もしにくいぐらいの状態になっており、周知出来ていると思う。ただ、通過点になっているのはもったいないと思うので、宿泊施設や河内長野駅前の商店街等を活用して、通過点ではなくそこで滞留や宿泊をしてもらえれば、駅前からならバスでいろんなところに行ける。大阪市内や他府県の友達からは泊まることがないという話を聞く。難波の駅で南天苑のきれいな広告が出ているとちょっと泊まってみたいという気持ちにもなるのでいいと思う。

委員：この数年、河内長野市はブランド化されてきた気がしているので、しっかりとこのまま進んでいていただきたい。1点気になるのは、観光ボランティアの多言語対応について、すぐに出来ることではないので、体制構築をサポートしていくことを中長期的に考えていく必要があるんじゃないかと思う。

委員：指標が道の駅に関するものしかない。広告の効果は客観的に測れないので仕方ないと思うが、すごく効果があったというには躊躇してしまった。写真も綺麗で私もまちで見ることもあるので、積み重ねていけば認知度も上がるのでいいという気はしている。道の駅は、車を持っている人のための施設で、車を使わない人にとって行きにくいので、広告にある2件のお寺を一気に行くのに、ハイキングとかバスとかをうまくアピールすると、より幅が広がるのではないかな。

委員長：河内長野の観光都市としての可能性は無限にある。すごく可能性があるのに、地元の人、河内長野の人でも可能性を信じられていない。もっと自信を持ってもらうために働きかけるのが市役所の仕事で、ようやく関心を持って進み出したばかりなので、満足してもらったら非常に困る。マイカーでないと楽しめないという弱点があるので、周遊とか回遊性を開発して、こんなところにこんなおいしいお菓子屋さんがあるとか、こんなところにすてきな喫茶店があるとか、一緒にマップを作るような住民運動や商店街運動を起こすとかすればいいと思う。スマホの時代だから、ピンポイントで発信してもらえるお客さんを大事にするというのが大事で、来てくれているお客さんばかり考えずに、もっとそういったツールを使って発信すればいい。アイテムがいっぱいあるのに河内長野市は使えていないと思う。

<委員会の評価>（「妥当」、「概ね妥当」、「要検討」の分類により評価）

「妥当」

○要素事業2 木のある暮らし推進事業

<担当課から事業内容・評価の概要を説明>

<主な質問、意見>

委員：木根館はすごくいい施設だが、どこにあるか知らない人が多いと思う。くろまろの郷や花の文化園に、サンプルを置いて施設へ誘導するなど、すでにやっているかもしれないが、連携やPRが出来ればよいと思う。

委員：河内長野で家を建てたい、リフォームしたいという人に、補助金の制度があることが浸透していないのではないかと。市内の工務店と連携して、もっと推進して欲しい。建てる方は安く建てたいがいいものを使いたいという気持ちがあると思うので、建築してくれる人からアドバイスをもらえたら、もっと使ってみようという気になるのではないかと。

委員：経済的に回していくこともとても大事だが、河内長野市は山がちな土地で間伐が進んでいかないと大変な問題につながるのでは、防災減災の観点からも大変素晴らしい取り組みだと思う。ただ、河内材の利用が44 m³増加したということ、どのように評価していいかが難しく、どのくらいの経済的なインパクトがあるのかがうまく評価できなかった。補助金はあるもののあまり利益がでていないのであれば、さらに利益を出していくために補助金の認知度をもう少し増やしていくなどしないと、経済的にサステナブルに続いていかないとと思う。

委員：木材の利用を促進することはいろんな意味で必要だと思う。市が補助金を出すので仕方ないかもしれないが、河内長野市内での建設に限定するのではなく、他のところでも使ってもらえる方が促進できる。44 m³をどう評価するのはよく分からなかったため、市民向けに説明するときは、分かりやすい書き方、表現をした方がよいと思う。

河内長野駅に河内材を使っているが、河内長野で見ても地場産業という感じになる。例えば、南海と連携して難波駅とかで出来れば、広告効果があるんじゃないかと思う。

委員長：河内長野の材木は、もっとマーケティングをしないといけない。認知度調査、商品価値などの商品情報を把握して、外に広げていけるかどうか、比較優位性はどこにあるのかを考えないといけない。比較優位性に自信がないから市内消費に向いてしまう。市内の人だけに地元材使えというのは難しく、むしろ近隣で河内長野の材木を使ってもらう方が販促効果はある。市域外に対して売るといふ優位性をどう開発するかと作業を支援していくのが仕事で、もっと進めて欲しいと思う。

河内材はブランド性が出ているので、宣伝を積極的に取り組んで欲しい。経費を惜しまずに行くと、地元の商売人も、頑張ってくれているという気になる。市役所の仕事として林業だけでなく、商業、マーケティングの観点も必要と思う。

<委員会の評価>（「妥当」、「概ね妥当」、「要検討」の分類により評価）

「概ね妥当」

案件2. 令和3年度まち・ひと・しごと創生寄附活用事業の評価について

事業：河内長野市まち・ひと・しごと創生寄附活用事業

○要素事業1 サッカーチームと連携したまちの魅力向上事業

<担当部局から評価結果の概要を説明>

＜主な質問、意見＞

委員：河内長野には、数多くサッカーチームがあり、子どもたちは一生懸命サッカーをやっているの
で、女子サッカーチームとの交流や地元へ PR をして、サポーターやお客さんを増やすことが必
要と思う。南花台だけじゃなく河内長野全体で盛り上がっているというふうに、サッカースタ
ジアムの整備に関するアンケートを他の地区でもやってみるとか、みんな来てもらって一緒に
サッカーチームを盛り上げましょうと PR してもらって、整備する場所がたまたま南花台だった
という発想にしてほしいと思う。

委員：女子サッカーチームとの交流はまだ先のことと思うが、河内長野市全体でチームを応援する
ということにしないと、他の地区は関係ないという形が生まれやすい。行政からアイデアを出
してもらって、それぞれの地区でも話し合いを持ってもらったら、もっと活性化すると思うし、
女子サッカーチームからももっと地域に出てきてくれるという場面を作ってもらったら、身近
に感じて皆が応援しようというようになると思う。

委員：企業版ふるさと納税の活用や UR 集約型団地再生事業について、非常によいと思う。市の実質
的な負担がなくハードを整備できるのは、資金確保のイノベーションの一つだと思う。UR の集
約型ということは、建っていた団地を、除却して、更地にするところまで UR が UR の資金で
して、そのあとに作る場所に、企業版ふるさと納税を活用するということか。
住民にどのぐらいのお金がかかっていて、どのような財源になっているかというようなことを、
きちんと説明した上で、住民の方たちの盛り上げをやっていく必要があると思うので、資金獲
得のイノベーションと同時に、住民参加とか住民理解を得る上でのイノベーションも目指して
もらいたい。

担当課：建物を除却して更地にするまでは UR でやって、更地になった土地を市が購入し、パンフレッ
トにあるようなサッカースタジアムを含む大規模な公園を整備することとしている。そのサッ
カースタジアム部分については、国費と企業版ふるさと納税を充てることとしており、公園部
分は、国費や市債を発行して残りは一般財源となる。

委員：市の実質負担がないぐらい集まっているのは評価できる。公共施設を整備するのに、みんな
で作ったというのはよいと思うので、どのように作ったのかという周知をした方がいいと思う。

＜委員会の評価＞（「妥当」、「概ね妥当」、「要検討」の分類により評価）

「妥当」

○要素事業 2 林道整備事業

＜担当課から事業内容・評価の概要を説明＞

＜主な質問、意見＞

委員：シティマラソンも多くの参加者がいるので、整備された林道を走るのは難しいのかもしれないが、有効活用ができればいいと思う。

委員：ちょっとずつでも、ふるさと納税によって整備される距離が伸びるのはいいと思う。

委員：林道整備をこういう形でやること自体はいいが、いろんな林道がある中でこの林道を選ばれた理由はあるのか。また、住民の方々も喜んでいるのか。

担当課：地区の方々も喜んでいる。林道の延長は約 7.4 kmあって、林道を使って山から間伐材を切り出して森林整備に活用されている。また、岩湧山の萱場は、地区の所有地で文化財の森として文化庁から指定されている森となっており、年 1 回萱を刈って文化財の屋根に活用されている。萱場へも直接車で行けるので、非常に活用がされている。さらに、金剛葛城ダイヤモンドトレールの尾根筋に接しているということで、もし登山者に緊急事態があれば、車で登っていけるということもあり、この林道を選んだ。

委員：数字だけだと 10 万円だけと思ったが、企業版ふるさと納税として多くの企業が手を挙げるタイプではなく、非常に愛着を持ってやっていただいているので金額の問題ではないと思う。今後は、直接的に林業に関わっていないが、河内長野の林業を応援しようとする企業もあると思うので、他業種にもアピールして、1 社でも 2 社でも増えていけばいいと思う。

委員長：10 万円という金額について、どのように評価しているのか。

担当課：企業版ふるさと納税として 10 万ぐらい寄附したいという申し出があったことからスタートした話なので、金額の大小ということの評価は特にはない。このような事例があったので、他の企業にどうですかと展開することの可能性はあると思うので、今後改善していくところと思う。

<委員会の評価>（「妥当」、「概ね妥当」、「要検討」の分類により評価）

「妥当」

案件 3. その他

事務局：令和 5 年度の外部評価対象施策について、これまで評価対象施策は、毎年度 3 施策程度を重点施策に選定し特に重点的に評価を行っている。分野としては総務、福祉教育、都市環境経済という順番で実施しており、令和 4 年度は総務分野を対象に評価をした。令和 5 年度評価は、順番では福祉教育分野になり、評価対象重点施策案として、施策 6「地域福祉の推進」、施策 10「健康づくりの推進と医療体制の充実」、施策 14「青少年の健全育成の推進」の 3 施策を評価対象としたい。

委員長：ご意見・ご質問はあるか。

各委員：(特になし)

委員長：次年度の予定は、事務局説明の通り進めることでよいか。

各委員：異議なし

事務局：評価いただいた事業は、委員のご意見をもとに、今後の施策の展開、事業の改善に努める。また、評価結果は、事務局で取りまとめて、後日、市ホームページで公表を予定している。その際、評価結果の取りまとめ、公表方法は事務局に一任いただいてよろしいか。

委員長：事務局に一任する。